

我が職場の安全衛生活動について

新城営林署 森 田 比 利
秋 葉 重 男

1. はじめに

私たち現場担当者は、適期適作業を敏速に、しかも安全に進める事が基本であり、地形、作業内容、作業条件も千差万別のため危険度も大きく、寸時たりとも気をゆるめる事はできない。

幾多の安全対策、安全指導を計画し、実行しているが、残念ながら毎年のように重大災害が発生し、尊い人命が失なわれている。

国有林野事業、現場災害は作業方法、動作不良に起因するものが90%以上と圧倒的に多く、行動災害を撲滅する事が急務である。

現在、当署造林事業の無災害記録の起算点は昭和51年12月18日で。その災害は私の担当区で発生したもので、枝打ち作業実行中、刃物により受傷したものであるが、その事が安全に対する大きな力の源にもなって、57年12月18日で6年間無災害の記録を達成する事ができた。

また、暴飲、暴食はさけ、帰宅直後のウガイと十分な睡眠を年間の柱とし、「自分の体は自分で守る」をモットーに実行の結果、私傷病も53年5月以来4年以上ゼロを続けている。

これも署をあげて、全員が一丸となり安全衛生活動に取り組み、各人の自律性と、責任ある行動に徹した成果であると信じ、私の班の安全活動の取り組み内容を報告する。

2. 私たちの担当区現場

私たちの職場、新城担当区は営林署を中心に、南北へ4つの国有林と1つの官行造林地に散在しており、山里に孤立し周辺を農耕地に囲まれた山と、急峻にして基岩の露出部が多く表面剝離の崩壊地が点在している山で、立地条件に大きな差をもつ作業現場であるが、仕事は条件の悪い川合国有林が主体のため、毎日緊張の連続で作業している。300事故通報の大半がこの山から出ている。

3. 私の班の安全活動・取り組み内容

「おらが山からは絶対に災害は出さない」との信念のもとに、主任・補助員を交えて、年度始めの「緑十字の日」に、班員1人ひとりが交替でTBMの先導者となり、去年1年間の安全日誌にそって反省しながら、内容を分析、集約して新年度の安全対策の基盤としている。

(図-1及び2参照)

毎年の事であるが、反省の中で幾つかの問題が提起される。その一部を紹介すると、

- (1) 300 事故通報の件数が多すぎる。足場に関するものが大半を占めているが、足元をしっかりと確認すればゼロになるはずなのに、こんな簡単な事が守れない。守れないではすまされない。身近かな事から実行すべきだ。
- (2) 件数の多い蜂刺されはどうだろう。予期せぬ所で急に襲われる。足場が良ければ逃げる事もできるが、ガラ山では岩場を滑り降りる事の方が危険だ。逃げて怪我するより、じっと我慢の子であって、帰宅後、病院で注射の一本もしてもらった方が良いと言う。
- (3) 300 事故通報は、一步間違えば重大災害となる。その手前の赤信号である。ここで声をかけ、気をひき締めれば大きな予防対策になるので、300 事故通報の多い事を誇りに思うべきだと言う。仕事に合った蜂の予防対策は無いが、刺れた後の処理は観賞用の蜂で体験した結果を教えてもらい傷口がはれる事なく、1 時間程度で痛みも取れるようになった。

論議はえんえんと続くが、その中から私たち担当区独自の年間安全目標をたて、その目標に基づき、1 人ひとりが行ってきた仕事、行動には責任をもち、お互いに協力し合い、決めた事、決められた事は必ず守り、和を大切に、健康で怪我のない明るい職場をつくる事を決意する。

1 年間で振り返ってみて、各人それぞれ色々な事を体験してきたが、こうして班全員が揃って前年度の反省ができることに感謝している。

ここで毎年と違った問題を 1 つ整理しなければならない。それは、局間配置換者 2 名の仲間を昨年 1 月 12 日に迎えたからである。気候条件、作業内容、生活内容までが違う土地に来て、日常会話も通じにくいなかで、四季を通して各作業とも完全にマスターし、怪我もなく共に頑張ってくれた事を、ほんとうに嬉しく思う。

ここで秋葉君が新任地での仕事と、安全衛生活動について感想を述べてもらう事にする。

4. 局間配置換者の安全衛生に対する感想

秋田の鶴岡営林署からきて、お世話になっている秋葉重男です。どうかよろしく願いたいと思います。

月日のたつのは早いもので、初めて雪の無い正月を新城ですごしもう 1 年が過ぎた。

○ 新しい職場の感想

初仕事の棚山国有林での境界刈払いは川合国有林と同じような急斜地で、しかも浮石の多い場所での作業は、常に落石、登り降り時の歩行中転倒、ねんぎなどの不安がつきまとい、現場を握りし体で覚えるまでは厳しい現場であった。特に冬期間の枝打ち作業には気を使った。前任地では鋸による枝打ちは少々行ってきたが、新勝鎌、枝打ち鉋使用は初めてであり、また、2 回目枝打ちの梯子による樹上作業と、幹につける切り傷などを思うと精神的につかれ、慣れるまでの間は勤務時間が長く感じられた。除伐、下刈りなどの鎌作業では、刃こぼれをさせて 2 ヶ月で鎌をだめにした事もあり、急斜地のため機械は使えず、転石が多く株間の近い関係から、能率面で仲間

に大変な迷惑をかけた事と思う。こうして怪我もなく頑張った事も、営林署の全面的なバックアップと、仲間の指導・協力があった事の事と深く感謝している。

○ 安全衛生問題について

当署は、安全衛生活動実施要領が各人に配付され、内容も、災害防止5原則から基本方針、重点目標など35ページにわたり、こと細かに計画され、対策を万全にして私たちの取り組み意欲をまわっており立派だ。

前任地でも安全対策は厳しく、「自から対策を考え、自から実践する」をモットーに積極的に取り組み、特に、重大災害発生時にそなえ、営林署と現場が一体となって、現場での災害発生を想定した模擬訓練、産業医による現場巡視、直接指導、健康相談、視聴覚教育等の推進に力を入れてきた。

5. おわりに

秋葉君に新任地での仕事と安全衛生活動の感想及び前任地での取り組みについて述べてもらったが、今後私たちも取り入れなければならない点が多くある。

私たちの職場は「高令化で……」という言葉をよく耳にするが、高令者だから能率があがらない、危険度が大きいとは言えない。若さとは年令でなく心だ。気の持ちようでその日を楽しく面白く精一杯働き、過せるものだ。この事が安全につながってゆくのだと確信している。造林作業基準を頭の中で整理し、その日その日の仕事にあった基準がすなおに反映できるよう努め、安全と健康を肝に命じ、昨年良かった点はより以上に伸ばし、欠点はすなおに認め、健康と安全作業実施に取り組んで行きたい。

前年度の安全日誌分析集約内容

公務災害日数	0日
私傷病日数	0日
300事故通報件数	48件

図-1 安全日誌(265日)記載内容

注意事項記入内容	記載日数	率(%)	備 考
足元、足場の確認	83	30	降雨日、降雨後、急傾斜地
浮石、転石、落石注意	60	22	風雨の強い日、急傾斜地
刃物の取り扱い注意	43	16	降雨日、急傾斜地、ツルの多い場所
上下作業、間隔注意	40	14	作業場所のせまい時
無理せず、あせらず、余裕をもって	20	7	作業がおくれ気味の時
心のゆるみ、油断するな	31	11	土、日、祝日の前日に多い。
計	277	100	

その日の作業場所の地形、作業内容、天候などに合せて、TBMで話しあい安全当番者が、日誌に記入して、全員確認後作業についている。

図-2 300事故通報内容

項 目	件数	内 容
蜂 刺 さ れ	26	足場が悪いため即座に逃げるできない。
浮 石 ・ 転 石	7	足を滑らす
笹 の 跳 返 り	5	下刈り、除伐作業中
転 倒	2	ツル、石、古株につまづく
踏 み 外 し	2	石、切り株
ま む し	1	下刈り時、植栽木の上部よりとびかかる。
そ の 他	5	猪によるイモ掘り穴に足を落とす
計	48	

56年度の分析、集約結果は、図-1・2のように地形条件の厳しさがはっきりと日誌上にもあらわれている。